どうなってほしい？上越市

さくらば節子の県政報告
令和２年度第2号

ごあいさつ　新型コロナ感染症との戦いで厳しい毎日ですが、皆様お元気でお暮しでしょうか。新しい生活様式にも慣れてきた私たちですが、停滞している経済活動を挽回するために皆様頑張っておられることと思います。一日も早いワクチンの開発と経済の復興を願うものです。

新潟県政の諸課題　③防災・減災に関する県の取り組み

災害大国ともいわれる日本の中でも新潟県は降雨・降雪による影響が強く、地盤がもろい地域を多く抱えています。特に近年は気象の変動が著しく、激甚化・頻発化する豪雨災害が懸念されます。花角県政では防災・減災の取り組みを「安心・安全な県民生活の一丁目一番地」として掲げています。したがって財政難の折であっても、財政上有利な国の補助金等を駆使して防災・減災のための予算を確保しています。

増水を見越して堆積土の除去や雑木の伐採を行った河川では、先の台風でも大きな被害を免れました。今年7月には新たに河川監視カメラを123か所に設置して、河川防災システムの改修を行い監視体制を強化しています。

上越市においては長年の懸案であった「保倉川放水路」の建設が待ったなしに求められております。早期実現のために国と連携しながら県議会も力を注いでまいります。

原子力災害からの避難訓練も毎年行われていますが、今年は新型コロナウィルス感染症のために県職員・市職員のみが参加して柏崎港で行われました。海上保安庁の巡視艇や自衛隊の船舶を使った効率的な避難移動を実施しました。

県は新型コロナウイルスの脅威への対策をさらに強化しています。現在地域外来・検査センターを14か所設置して、医師が検査が必要と判断した場合には遅滞なく検査が実施できる体制になっています。国が推計した感染拡大ピーク時に備えて患者受け入れ可能病床456床と療養向け宿泊施設186室を用意してあります。SNS等を活用した注意喚起の情報発信システムも導入します。

県の事業ではありませんが、新設の上越消防署に配備されたドラゴンハイパー・コマンドユニット（高度化学消防隊）の優れた機能も上越地域の今後の防災に大きく活躍するはずです。

新潟県保守系女性議員の会「雪椿の会」設立に向けて

女性の活躍が叫ばれて久しいですが、日本社会ではいまだに政界や企業で重要な役職の座に就く女性の数が少ないのが現状です。この度は数少ない女性議員の連携と職務能力の向上に向けて、県内保守系の女性議員による「雪椿の会」を立ち上げる運びとなりました。

準備のための初会合は講師としてお招きした花角県知事の都合から9月議会直前となりました。急なお誘いにもかかわらず、新潟県下の各市町村より私ども県議を含めて25名の女性議員がお集まりくださいました。花角知事の講演は県の女性管理職の登用率を含めた県内の女性活躍推進の取組みから始まり、県政の諸課題に対する基本方針を語られるものとなりました。知事からは県政の大きな三本の柱である

① 防災・減災の取組み
② 健康立県の取組み
③ 財政再建への取組み

と言う観点から説明していただき、そのあと議員より知事への質疑応答の時間を設けました。

熱心な参加者を前にして語られた花角知事でしたが、その後の質疑応答でも熱が入ったやり取りが続きました。知事もたじたじの勢いで地域の現状を訴える声や新潟県の姿勢を問う声が飛び交い、予定した時間をはるかに超えてしまいました。用意した昼食を召し上がっていただく時間もなく、熱く語り続けてくださいました花角知事には深く感謝いたします。

「雪椿の会」は年度末の正式な設立を目指して現在準備中です。会員には質の高い研修を重ねてよりよい議員生活を送っていただくとともに、知事への要望や国会要望にも定期的に参加していただくつもりです。今後の活動にご期待ください。

「移住者まるごと支援会」の活動

市議会議員の本山正人氏を会長として、旧東頸城を中心にかれこれ3年ほど活動を続けている「移住者まるごと支援会」と言う会をご紹介します。もともとは中山間地域に都市圏などからの移住者を呼び込もうとして地域活性化活動をしていた個人の意見交換の場として設けらました。後に会長が安塚区に「安塚おためしハウス」を作られてから正式に発足し、私も事務方として参加しています。大島区の民宿「うしだ屋」や牧区の「高尾お茶のみ散歩」の実施家庭、実際に各地域に移住してこられた方々やこれから新しい活動を始める人など、皆が集まって茶話会を開きながら交流しています。

7月の会合では長野県信濃町で空き家を活用して移住者のための組織的活動を行ってこられた「NPO法人ざいごう」の専務理事をお迎えしました。移住促進のためポイントをお伺いすると以下の点でご説明いただきました。

① 春夏秋冬の十分な移住体験をしてもらう。
② 空き家はすぐには売らずに貸す。移住期間を確認したうえで、期間内で払いきれる分だけ改築する。
③ 移住してきた人たちの拠り所を作り、土地に慣れるまで親身になってお世話する。

今後は他地域で移住促進活動をする団体とも交流し、更に充実した成果を上げて行けるように努力してまいります。

https://www.facebook.com/移住者まるごと支援会-270866073784575

さくらば節子の活動記録（令和２年７月～令和2年９月）

7月17日　総務文教副委員長就任
議長･副議長、各委員会長･副が決まり、総務文教の副委員長に就任しました。

7月21日　市民女性セミナー講師
テーマを「メディアリテラシー」と名付け、報道と印象操作に関してお話しました。

7月30日　知事視察に同行
保倉川放水路用地、儀明川ダムの建設現場にて知事が説明を受けられました。

8月4日　新潟県防災訓練視察
柏崎港にて海上保安庁と自衛隊の船舶による原子力災害避難訓練を視察しました。

8月6日　新上越消防署を視察
最新鋭の消防車を使ったドラゴンハイパー･コマンドユニット の演習を見学してきました。

8月4日　地域猫一斉避妊手術を視察
地域猫の避妊活動を続けてこられたボランティア団体による一斉手術に立ち会いました。

8月23日　阿部正美氏講演会に参加
拉致問題を誰よりも早く察知した立場から、報道の重要性を語られました。

8月25日　さくらば節子県政報告会
三密を避けての20名ほどの会合でしたが、活発な意見交換をしていただきました。

8月31日　「雪椿の会」発足準備会
高見美加県議をはじめとした新潟県保守系女性議員とともに会の発足準備をしました。

9月1～2日　総務文教委員会県内視察
県内の地域活性化政策の拠点と優れた学校教育の現場を視察しました。

9月12日　児童虐待防止キャンペーン
高見美加県議と共に新潟市で街頭から児童虐待防止キャンペーン活動しました。

9月26日　吉川特別支援学校フェス
各学年の実習風景や作品などを見学させていただき、たくさん元気をもらいました。

メドアグリクリニックじょうえつが示す訪問医療の未来

三和区の「米と酒の謎蔵」と「味の謎蔵」が6月30日で廃止され、訪問医療専門の医療法人メドアグリクリニックに譲渡されました。

厚生労働省は将来超高齢化社会となる日本の医療・介護体制の確立のため「地域包括ケア」というシステムの構築を2025年を目途に推進しています。病院に行かなくとも自宅で医療や介護を受けられる体制の準備が求められています。私も市議時代には上越市がどんな形でこの地域包括ケアを進め、ただでさえ不足な医師を獲得するのか、懸念しながらも期待を込めて見守っておりました。

メドアグリクリニックはまさにこうした医療の隙間を埋めるためのシステムを持っています。医療行為と事務作業を分離することによって医師の業務を軽減し、医師の休日を確保しながらも「365日24時間サービス体制」を提供しています。交通難民とも呼ばれる独居の高齢者など一人では医者に通えない人、自宅療養や見取りを希望する人すべてが対象になる画期的な医療サービスの今後を期待します。

9月16日　三和区事務所視察

さくらば節子の随想

日本人の国民性と憲法 東日本大震災当時、被災しても我慢強く助け合う日本人の姿に世界中から称賛の声が上がりました。今回の新型コロナ感染症でもその日本人の真面目な国民性を目の当たりにしたように思います。協調性が高くて他人の迷惑になる事を嫌う温厚な気質です。ひとたび国や自治体が「これをやらないでください」と言うと、まじめに取り組む姿が印象的です。一方諸外国では法律で規制をかけても守らない国民が多くいるようです。

しかしこの真面目さが時としては負の方向に出ることもあります。日本は先の世界大戦で敗戦国家としてGHQの統治を受けると、今まで価値を置いて信じてきたことをことごとく否定されました。占領軍による統治政策に従いひたすら反省した結果、「戦争しない新しい国を作らねば。憲法も新しいものを、教育をも今までとは違う新しいものを！」と、新しい価値観による国造りに向けて方向転換せざるを得なかったのでしょうか。戦争を真面目に反省した学校教育は子供たちに「日本の罪」を強調しました。私が中学生のころは自分が日本人に生まれてきたことが恥ずかしく思われたものです。

連合国軍最高司令官であったマッカーサーは「日本の先の戦争の原因は主に自衛のためであった」と昭和26年5月3日に米国上院軍事外交合同委員会で証言しています。つまり大戦の責任が一方的に日本にあったわけではないという証言です。日本のマスコミはこの証言を一切報道しませんでしたが。

戦争は多くの人を巻き込み、凄惨な殺戮を行わせる罪深い行為であり、絶対に起こしてはなりません。日本がその戦争を起こしたという反省は消えることはありません。しかし真実に支えられた相互認識こそが持続可能な国際関係を築くことができることを思うと、今こそ日本国民は近代歴史を再検証していくべきではないでしょうか。具体的には

① 弁護人もなく戦勝国側の独断により行われた理不尽な東京裁判
② 国際法に反して原爆投下・東京大空襲等による民間人の無差別大量殺戮を行った米国の責任
③ 日ソ中立条約を破って満州で残虐行為を行い北方領土を不法に占領し続けるロシアの責任

これらのことを明らかにしたうえで、戦後GHQによって作成された日本国憲法を日本人の手によって検証し、現代社会に対応できるように改正するべき時が来ているのではないでしょうか。

子供たちが正しい歴史観に基づく日本人としてのアイデンティティを持つことで、その未来がさらに希望に満ちたものになると確信します。

発行日：令和２年10月20日
発行：櫻庭節子
住所：〒943-0882
上越市中田原７８－２７
さくらば節子事務所
電話：025-520-8221
Fax：025-520-8228
電子メール：office@sakuraba-setsuko.jp
オフィシャルサイト：http://www.sakuraba-setsuko.jp